

平成 23 年 3 月 31 日発行  
4 号  
京田辺市観光ボランティア  
ガイド協会広報部編集

## 京田辺市観光ボランティアガイドの現状について

発足して 5 年目を迎えます。メンバーは観光ボランティアガイド養成講座の受講者で構成されています。観光ボランティアガイド養成講座も一期から三期と年数を重ね、二期からの養成講座はボランティアガイド主体で実施しています。

現在は 60 歳以上のボランティアガイド 22 名が活動しています

が、小人数のわりにその顔ぶれは多彩で、京都市や宇治市の観光都市で本格的に観光ガイドをしている人、アナウンサーや観光バスガイドとして活躍したその道のオーソリティー、中国語や英語に堪能な人、パソコンの達人等豊富な人材をかかえています。それだけに観光客の多い京都市や宇治市に比べ、ボランティアガイドの活動機会が極端に少ないのが残念です。しかし見方を変えればその分、無理のない余裕のある活動ができることです。また、京都市のように多くの観光資源を対象とする観光ガイドに比べ、観光資源が少ない分ゆったりとしたペースで観光資源について深く掘り下げた勉強をしていける面白さがあります。そしてなによりも観光客に対して詳しく丁寧な案内ができる強みがあります。そのような特徴を生かした成果が、定番化した「JRふれあいハイク(春・秋・冬)」において、遠方からの参加者やリピートの増加として現れています。



流れ橋 観光ガイドの説明に耳を傾ける

来年早々には新たな観光資源の掘り起こしと誘客をはかり、さらなる飛躍のため観光ボランティアガイド養成講座(四期)を計画していますので是非ご参加ください。

(副代表 小川祐輔)

## シリーズ 京田辺の神社仏閣めぐり

### 棚倉孫神社

寒さが少し和らいだ  
3月4日、観光ボランティアのメンバー12人で、棚倉孫神社に勉強会を兼ねてインタビュー訪問を



棚倉孫神社

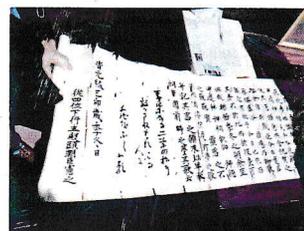
しました。私達が到着する以前から、貴重な文献、古文書の巻き物、棟札などを用意し、南啓史宮司さん、氏子総代長・武村理さんにお出迎えしていただき大変恐縮いたしました。そして霊気漂う境内で、私達にもわかり易く説明をしていただきました。

棚倉孫神社の社伝によれば、852年文徳天皇の代、藤原良房が公詔を受けて造営されたといい、貞観元年(859年)、従五位上を受けた延喜式の式内社です。

昔、相楽郡棚倉ノ庄の地主神天香古山命(別名高倉下命・天照大神の曾孫)を勧請したものといわれ、現在の「棚倉孫神社」の由来となりました。

本殿は一間社流造檜皮葺で山城地方では最も古い桃山時代の建築です。本殿には貞享3年(1686年)に改修した棟札(登録文化財)があります。

境内には元禄15年、淀城主石川憲之が寄進した明神鳥居があり、その様子を描いた古文書なども拝見させていただいた。また他の古



石川憲之の記載がある古文書

文書には当時の絵馬殿の建物や、瓦葺の神門等の様子が残されており、貴重な発見をいたしました。



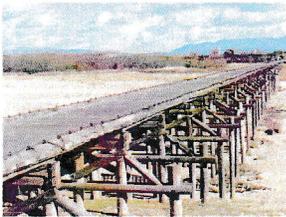
左から天満宮縁起、棚倉神社記  
棚倉 孫神社記録の古文書

時代の変遷に連れて天満宮と称し、又棚倉神社となった所以の裏話を聴くことができ、大変楽しく且つ勉強になる時間を過ごさせていただきました。大変有難うございました。(御礼合掌)

### ボランティアガイド(VG)初デビュー!!

正月気分も抜けきらない1月11日、シパング倶楽部のバスの旅に、VGとして、初デビューを飾りました。50~80代の方々、20名の参加で、「国内最長級の流れ橋と山背古道の古刹を巡る」ツアーです。

JR 京田辺駅を出発し、流れ橋に向かいました。この橋は上津屋橋とも呼ばれ、木津川にかけられた全長356mの木造橋で、梅雨や台風がもたらす豪雨により水位が上がると、ワイヤロープでつながっている橋板が外れ流れ出します。水位が下がるとワイヤロープを手繰り寄せ、元の形に復元するという構造になっています。寒空の下、全員で橋を往復しましたが、河原の白砂と清流が調和し、のどかな趣は「名橋」に恥じない姿でした。



流れ橋



澤井家住宅

次いで大住地区に残る重要文化財の澤井家住宅を訪れました。気品ある古民家の土間で、竈で炊いたご飯と豚汁、漬物が振舞われました。一汁一菜の食事が、かえてシンプルで、お焦げ飯を懐かしみ、幼い頃を回想されたかたも多かったようです。

午後からは山城地区の蟹満寺を訪れました。この寺には、白鳳時代の国宝・金銅釈迦如来坐像を拝観していただきました。重量感のあるお姿を見て圧倒されました。またこの寺は今昔物語に登場する蟹の恩返し伝説でも有名です。

最後に山路の集落にあり、訪れる人も少ない小さな

お寺・神童寺を案内しました。役行者が作ったと伝える蔵王権現像を本尊とし、また収納庫には白不動、天に向かって矢を射る愛染明王など、文化財指定の仏像が安置されていました。冬枯れをした境内には三つ葉ツツジが無数に植えられ、春の終わりには樹々の間に可憐な紫色の花が咲き乱れるのを想い浮かべながらバスは解散地のJR木津駅へと走りだしました。



神童寺

(京田辺観光 VG・岡井')

### JR ふれあいハイク冬号案内記

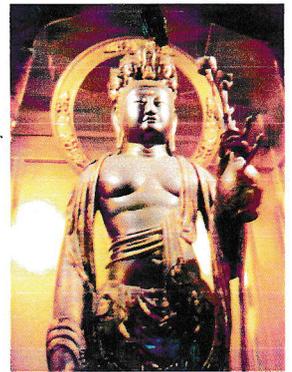
「筒城宮跡を偲んで京田辺の早春の里山を歩く」

2月15日(火)、心配していた前日の雪もあがり、数名のキャンセルが出たものの、59名の出席があり、6班に分かれてJR同志社駅前を9時45分前後にスタートしました。

今年は継体天皇遷宮 1500年の記念の年となるため、同志社大学構内の伝承地では継体天皇について詳しく説明し、資料館、下司古墳群、観音寺、ふれあいの駅、欄工房、みつマンボ等を回りました。

参加者の中には古代史に詳しい人や継体天皇をあまり知らない人など様々おられましたが、雪の残る里山に1500年前を想像してもらいながら、謎の多い天皇談議に花を咲かせました。

観音寺では二手に分かれ、半数近くの参加者が本堂に入られ、天平時代の国宝で美しい観音像に間近で対面できた事に感動していました。



観音寺 国宝十一面観音立像

寒かった二月堂への竹送りの話や、桜と菜の花の写真で春に開催される「花見ウォーク」を紹介し、雪景色の中、昼食をとりました。

後半の欄工房では、華やかな胡蝶蘭に疲れも飛び、少人数での班編成が好評だったのか、感謝の声と共に次回の再会を約束して、午後2時半ごろJR京田辺に無事到着、解散しました。

(京田辺観光 VG・土居厚)

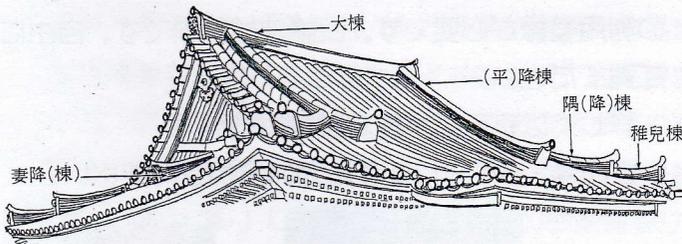
シリーズ

「屋根の知識」 その1

寺院建築はその目的・用途により、構造上、機能的、耐久性、装飾性を備え、さまざまな特色と様式を持った集合体です。従って、まず建物全体を見る事が大切です。そこで寺院仏閣を見渡した時、最初に目に飛び込むのが屋根でしょう。まず屋根の基本的知識を学習します。

	切妻	寄棟	入母屋	方形	八注	半切妻
見取図						
正面側面						
平面図						

屋根の形の基本形



瓦葺屋根の棟の名称

\*屋根の形式：屋根の全体的な形を示します。

・切妻造：本を半ば開いて伏せた形。妻は物の端や縁の意味で、屋根の両端が垂直に切られている形体をいう。



西本願寺能舞台

・寄棟造：大棟から四方に屋根を葺き下ろしたもので、大棟と4本の隅降棟がある。古語の四阿（あずまや）もこれに含む。



神童寺

・入母屋造：母屋を切妻造とし、その四方に庇を葺き下ろして1つの屋根としたもの。上部



大通寺 (長浜)

が切妻造、下部が寄棟造となっている。

・宝形造：四方の隅棟が頂上で屋根の中心に集まる形式で、平面図は正方形である。頂点には宝珠、露盤等を乗せる場合が多い。



安国寺経堂(高山市)

・六注、八注：宝形造りの変形で六注、八注の屋根がある。安楽寺八角三重塔は国宝である。



頂法寺(六角堂、京都市)

安楽寺八角三重塔→



・流造：片面の屋根が下部へ凹形に湾曲したものをいい、神社、祠に多く用いられている。



伏見稲荷 三間社流造

・両流造

両面の屋根が下部へ凹形に湾曲したもの。



松尾大社 両流造

\*その他の屋根

・鋳（しころ）屋根：大棟から葺き下ろした屋根の途中で区切りを作り角度を変えて屋根を延長する形式。



鋳



本妙寺(京都市)

(次回に続く)

お知らせ

京都 e ラーニング塾

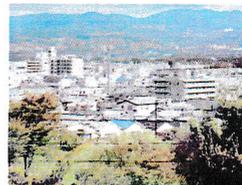
「継体天皇ゆかりの伝承地を訪ねて」

4月1日から放映開始！！

古代、京田辺には継体天皇によって置かれた「筒城宮」がありました。今年は筒城宮遷都 1500 年にあたり数多くのイベントが予定されています。その一環として、「継体天皇ゆかりの伝承地を訪ねて」と題して、観光ボランティアによる e ラーニング講座が放映されます。受講には京都 e ラーニング塾への利用登録が必要です。受講料は無料です。自由にご覧ください。

詳しくは京田辺市総務部管財情報課

0774 - 64 - 1313 に問い合わせください。



編集後記

京田辺の町筒城宮跡碑

平成 22 年度も後半に入り、広報誌「つつきの」第 4 号を発刊する事が出来ました。

今年中には景気が上昇するのではと期待しましたが、一向に良くなりません。また世界各地の暴動やニュージーランドの地震に憂慮していましたが、なんと 3 月に入って未曾有の超大型地震が日本に発生、大津波により東北、関東を飲み込んでしまいました。多くの人の命が失われ、心からお悔やみ申し上げます。

我々、観光ボランティアにとって、その活動は極々小さな行為ですが、観光に来て戴いた皆様に少しでも楽しんで頂けるよう

23 年度も頑張りたいと思っています。

